

研修名	保健衛生・安全対策 令和元年 6月18日(火) 10:00～12:30
講演	「事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組」 「他業種との協働」
講師	名寄市立大学 猪熊 弘子 氏

1. 講演要旨

1) 子どもの命を守ること

- ・保育で最も大切なことは保育所保育指針「養護」(生命の保持+情緒の安定) 一人一人の子どもの存在を大切にすることが養護であり、「命」を守ることにつながる。同じ年齢でも年齢・環境・発達など違うということも踏まえた保育。

☆「死を招いた保育」(上尾保育所事件)から

- ・2005年8月埼玉県上尾市にある保育園で4歳の男の子が園舎中の「本棚」の引戸に入り込んで熱中症で死亡した事件。
- ・保育士同市、保護者同士も仲が悪く、子ども同士の間関係ができていなかった。日常の保育に多くの問題があり、その問題を放置していたため起きた事件。



★環境を変える為の実践(保育研修)

- ①園舎の見取り図を用意し、関係者全員が危険と思う場所に付箋を貼る。
- ②必ず付箋の重なる場所が出てくるので、そこは改善する。
(意見は出にくいので会議ではしない。)

2)「保育事故」で知っておきたいこと

- ①重大事故で失われるもの「命」と「信頼」
- ・子どもをなくすことは保護者にとって最大の悲しみと苦しみ。
「重大な事故」を起こさないことが、園への最大の信頼、園の存続に関わる。
大切な子どもたちを守ること＝先生たちの人生を守ること。
- ②「事故」は起こるものではなく、「起こさないようにするもの」と考えることが必要。
- ③園内で同じような事故が繰り返されている
「ヒヤリハット」(怪我の前もの)を出す。誰がいつ・どこで・何をしたら、チェックし集計することによりパターンが見えてくる。
- ④子どもが重篤な状態になるまで、わずか「4分」しかない！
大切なのは「あと4分！」という状況にしないようにすること。
- ⑤死亡事故の典型的なパターンを知ること、重篤な事故を避けることができる。

3) 「保育施設」での死亡事故の現状

死亡事故が最も多いのは

- ① 年齢＝0歳児 ②時間＝睡眠中 ③場所＝園内
 - ④預けられてから比較的短い時間（当日、2回目、3回目）が多い
- 体に変調をきたしやすい為、慣らし保育は丁寧にすることが重要。
- ・最も気を付けたいのは、「くう・ねる・みずあそび」

4) 安全に保育するために守ること

- ①ねる（睡眠）＝0.1歳＝睡眠中の事故
 - ・絶対に「うつ伏せ寝」にしない。最初から仰向きで寝かせる。
 - ・表情が見えるように、明るい部屋で寝かせる。
 - ・タイマーを使って呼吸チェックをする。舌圧子の利用も便利。
 - ・泣かせたまま寝かせない。
- ②くう（食べる）＝1～2歳＝食事中的事故
 - ・34mm～39mmの大きさのもの、入ってしまうので気をつける。
 - ・寝ながら食べさせない。必ず起こす。
 - ・子どもの嚥下発達をきちんと把握すること。保護者と確認共有。
 - ・きちんと飲み込んでいるかしっかりみる。急いで食べさせない。
 - ・アレルギー食の対応。誤食の無いよう、目で見える工夫を。
- ③みずあそび＝2歳以上＝水の事故。
 - ・プールには必ず監視する人を置く。

2. 感想

実際に起きてしまった保育事故のお話をいくつも聞き、胸がつまりました。日々の保育を振り返り、今回の研修で教えて頂いたことを実践し、事故を「起こるもの」ではなく、「起こさないように」しなければならないと思いました。また、上尾保育園事件で浮き彫りになった人間関係が事故原因となった事実には驚き、日々の保育士同士・保護者とのコミュニケーションの大切さも改めて感じました。子ども一人ひとりの存在を大切に、皆が笑顔で過ごせる保育をしていきたいと思えます。

（記録 くぬぎ保育園 西原 知子）